

目的 無機防災剤 および、市販防災剤2種を用いて、易燃焼性繊維を処理し、その処理条件による防災性能と剛軟度を検討したので報告する。

方法 試布は易燃焼性のモメン、ペンベルグ、レーヨン、防災剤は、硫酸アンモニウム、硼砂、硼酸、の無機防災剤と、市販のノンネン、ファイヤーブルーフPを用いた。濃度3種につき常温で浸漬時間、5分、10分、20分とし、所定の前処理をおこなつて、防災試験に供した。防災試験法は45°ミクロバーナー法と、試布支持角度を垂直にしたマツチ試験法をおこない、測定項目を、前者については残炎時間、残じん時間、炭化面積、後者については、燃焼の進む距離を測定し、それぞれの判定基準にあわせて、防災効果の合否を判定した。また加工布の剛軟度も45°カンチレバ法によつて測定した。

結果 三試布とも、加工剤の濃度の異なるものが、附着率が高い。浸漬時間の附着率におよぼす影響は明らかでなく5~10分の浸漬でよい。附着率10%以上で防災効果がみとめられ、無機防災剤ではペンベルグには15%以上の附着で、レーヨンでは13%以上の附着で残炎残じんともにみとめられなかつた。他の防災剤についても詳細に報告する。剛軟度はモメンについては原布より、加工布がやゝ剛くなり無機防災剤ノンネンにその傾向がみられファイヤーブルーフPは、やゝ軟かい。